

の研究成果の発表は日本語に偏し、国際研究プロジェクトへの参加は極めて少なく、相互的な国際交流の進展は、依然として将来の課題である。(前述(2)(研究成果の発表),(国際交流の実情))。

研究費に関し、研究者自身の自由に選んだ個人的・萌芽的テーマの研究に使用できることに大半の満足が寄せられているにしても、年間研究費の額は低く、所属の学部・研究所の図書予算では必要文献の調達ができず、多くの研究者が年間図書費のかなりの部分を私費で負担しているほか、学会出張旅費の支給についても、適切と認める者は半数に満たない(前述(3)(研究費))。第2部の関連する研究分野では、おおむね個人研究が中心であり、研究環境ないし設備についての関心は必ずしも重大でないが、研究者の満足度の分散は、高度情報化に対応する各研究者の研究方法の変化の濃度にも関係していよう。図書館の共同利用もあるが、他機関の図書館の積極的利用が明瞭に進んでいる(前述(3)(研究環境),(施設の共同利用))。

情報の収集・保存に関しては、情報・データの通信設備の不備を指摘する声が高いが、その他には特記すべきものがない(前述(4))。